

富士川

43・7月 7. 3 No. 95

「広報ふじかわ」には、町で生活していくために知っておきたいこと、大切なことがついています。
今、必要でなくても後日、役立つ場合もあります。
つづつて保存しておきましょう。

印刷/望月印刷所 T 810304

無投票当選した

中川町長に

今後四年の

富士川町政の抱負

を聞く



現職で立候補・7月2日
無投票当選決定・第22代富士川町長に就任した中川国兵氏

二期目にはいった中川町長に「広報ふじかわ」読者の皆さんにかわって、今後四年の町政に対する抱負を伺いました。

再び町長を志したご決意について

「前期四年間、皆さんのご支援を得て、保育園・幼稚園・小学校の施設充実を公約どおり実現、富士尾橋線をはじめ町道、農林道の開発、全町の水道の統合整備等、町民の皆さんの生活の安定をはかり、歩道・歩道橋・信号機を増設して交通安全対策にも努力してきました。

わたたくしが再び町長に就任しようと決意したのは、この前期からの継続事業や町将来の発展を願う新規事業の遂行がわたたくしに課せられた任務であると痛感するからです」

席上、中川町長が語った要点を解説して次に掲載してみました。

中学校施設整備

ここ四年ほどで、二つの幼稚園二つの小学校が新装され、町の長年の懸案であった文教施設の充実には目を見張るものがあります。
町は、この段階で、さらに第一中学校、第二中学校の施設整備を進める方針を打ち出し、その具体案を検討しています。

小学校幼稚園

教育設備の充実

町は、新装された文教施設の機能を十分生かすため、第一・二幼稚園、第一・二小学校の、教育に必要な設備を、よりいっそう整えていきます。

パイパス連絡線

岩淵小池下線を新設

エリア・バスストップ
連絡線も検討

国道一号線の交通渋滞のため、パイパス開設が具体化しましたがこの路線が由比から蒲原を経て富士川河口から富士に結び、当町を通過しませんので、これに連結する町独自の路線が是非とも必要であるため町は、このパイパス連絡線として岩淵小池下線を新設する方針です。

幅員16mの近代的路線を策定しております。

(路線計画図は、広報ふじかわ2月号4ページに掲載)

なお、富士川サービエリアバスストップとの連絡路線も考えています。

第22代富士川町長として、皆さんの生活環境の向上をはかり、すばらしい町、富士川町の建設のため、全身全霊を投入します。
皆さんのご協力をお願いします。

富士川町長
中川 国兵

富士川富沢線の

バイパス実現を運動

各路線の

交通安全対策強化

県道富士川富沢線の交通禍については前月号で詳報したとおりでこの路線のバイパスを望む声が高まっています。

町は、河川敷にダンプ専用道路を施設すること、長期計画としては、この道路のバイパスを新設することを関係上級官庁へ陳情しており、今後も実現運動を強力に進めていきます。

また、この県道を含め、町内各路線の交通安全対策もおいっそう強化していく方針です。

工場排水路の新設

環境衛生施設の

整備

町は、東町地先の工場群の排水と東町一般住宅の排水を一本化した排水路を新設し、環境衛生を向上させる施設の整備について検討しています。

この事業を実施するためには、綿密な調査を経たあとの詳細な計画が必要であるの言うまでもありませんが、国費を得るためには

事業費の三分の一の町費と同じく三分の一の受益者負担を確保したうえで、このため、企業経営者の全面的な協力が条件の一つになってきます。

町は、予想される諸問題について研究し、具体化への第一歩をふみだします。

公害

山砂利対策

企業の近代化に伴って、いろいろな形の公害が表面化してきます。町は、この公害対策にも積極的に取り組んでいきます。

当面、考えられる問題として、山砂利採取から生ずる公害を予想この対策を進めています。

砂利採取業者は、現在、富士川の砂利を企業化していますが、来年からの規制に備え、北松野下平地区の山の砂れき層や南松野の砂山に着目、七、八に及ぶ業者が町と県に計画書を提出して、町道通行の許可を求めてきており、企業開始となったときは、延二五〇〇台のダンプ車がフルに往復することが明らかにされました。

このため、町は、山砂利採掘が水源・灌漑用水を枯渇させることがないよう、土砂崩れなどの危険のないよう、さらには、住復する

ダンプ車から町民を守る対策を慎重に検討を続けています。

大衆窪

宅地造成

を計画

町は、小池地先の大衆窪山を開発して、住宅団地を造成し、宅地不足に悩む皆さんに、水道・道路公園の付いた優秀な宅地を、しかも一般売買価格よりも安く提供しようとして、この実現に努力しています。

事業主体は、県が行なう予定となっております。



この場合、県は、地主の皆さんから土地を買い上げ、宅地化に必要な諸施設を施工して、区画し、分譲するということになり、したがって、土地買収費にこの事業費を加算したものが宅地価格となるわけですが、道路とか公園等の関係で、買収した土地の半分しか宅地

となれず、この間の計算に無理が生ずると実現不能となってしまいます。

町は、町内宅地対策と人口増加に大きな好影響を与えるこの事業を重視し、具体化するため、県と折衝しています。

県道

富士宮由比線完工

の促進をはかる

由比町・富士川町・富士宮市の広域行政上の道路として、また産業道路として完工の待たれる県道富士宮由比線は、あと三年ほどで開通される予定ですが、激変する社会状況を反映して、一日も早く完成させる必要性が強くなっています。

町ならびに富士宮由比線道路組合会は、この「時代の要請」を県及び建設省当局へ陳情した結果、公共事業として四十一年より採択となり、なお早期完成を運動、今後この促進に努めます。

小池川改修工事

至急完成を

昭和三十年八月三十日に、小池川のはん蓋から、中之郷下地区、とくに本通り、幸町地区が大きな

水害を受け、以来、この川の治水に、町・県の重なる努力が払われてきていますが、東名高速道路完成とともに、その路面にたまる降雨の排水が小池川へ通ずることさらに水量を増すことになりました。

町は、この小池川改修工事が至急完成されるよう、関係官庁へ猛運動し、同地区皆さんの期待にこたえようと努力しています。

現在、改修工事は、下流、蒲原町で行なわれており、順次上流へと進められます。

中川町長

語る

中川町長は、以上の町の方針、町長としての抱負に加え、次のように述べています。

「……、このほか、農業構造改善を中心に農業近代化事業を進め、商工業の振興対策に努力し、今後ますます重要性を増す飲料・灌漑・工業用水の確保等水資源対策を確立し、青少年保護育成・高令者母子家庭対策等社会福祉事業を推進、なお防火・防災対策にも万全の備えを固め、さらに広域的「観光・富士川」を前面に押し出していきたいと考えています」